

採 撫 餘 錄 (其十四)

久 内 清 孝

K. HISAUTI: Botanical Notes (XIV).

○西洋きんぼうげ (新稱) (第3圖)

大正3年5月横濱市瀧頭ノ草原(今デハ住宅地ノ中心ニナツテ居ル)デ、見馴レヌうまのあしがたヲ採集シ、其標本ガ今尙余ノ手元ニアル。草ノ丈ハ15 cm (本來ハ30 cmニモ達スル由)位デ、基部ガ膨脹シテ塊狀ヲ呈スル。根生葉ハ長柄ヲ有シ(6 cm) 其中カラ數本ノ萼(12 cm)ヲ抽出スルガ、其長サハ根生葉ノ全長ヨリ餘リ長クナク、細裂シタ葉ヲ具フ。花ハ黃花デ、其直徑ハ邦産ノモノ、倍位ハアル。萼片ハ花時反捲スル。學名ハ *Ranunculus bulbosus* L. デアル。寫眞デ充分ニ判斷出來ルト思ハレルノデ草狀ノ記載ハ省略シテヨカラウ。

○いがやぐるまぎく (新稱) (第1圖)

會テ(27 VII, 1915) 横濱市瀧頭ノ輸入獸類檢疫所ノ構内デ、やぐるまぎく屬ノ一草ヲ得タ。今之ヲ文獻及ビ外國標本ニ照スニ、歐洲ニ普通ナル *Centaurea solstitialis* L. ニ該當スル。やぐるまぎくトハ云フモノハ、園藝品ノ其名デ呼バレルモノハ、様ナ、立派ナ花ハ咲カナイ。マタ園藝品ニ見ラレナイ様ナ、モノ妻イ棘ガ總苞片ニ出テ來テ、花後ニハソレガ著シク發達スル。棘ハ普通總苞片ノ尖端ニ1本出來、其兩側ノ基部ニハ各側ニ2本ノ小棘ガ生ジ、時ニハ之レニ小枝棘ノ分枝ヲ見ル。頭狀花ハ黃色デ何レモ筒狀花デアル。葉ハ莖ノモノハ羽淺裂ヲスルガ上部ノモノハ全縁デ疎ニ微刺ヲ有シ全株灰色デ軟毛ニ覆ハレル。

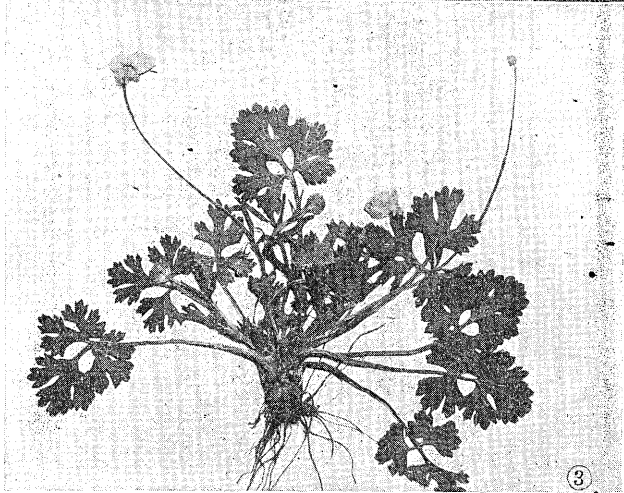
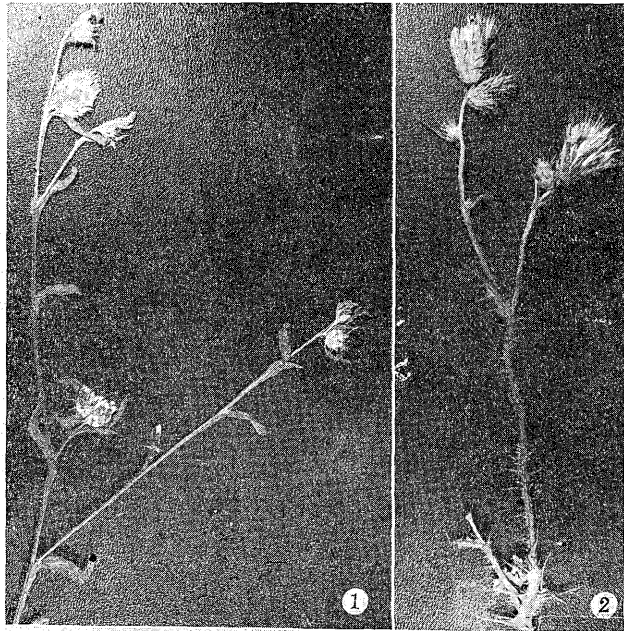
○おにひれあざみ (新稱) (第2圖)

大阪ノ高田仁一氏ガ、甲子園デ(1 VI, 1916) トラレタモノトシテ送ラレタひれあざみニ酷似シタ一品デアル。後者ヨリハ、莖及ビ葉ノ棘ガー層強剛デ、全株ニ綿毛多ク、總苞モ幅ガ廣ク、標本デハ幾分外捲スル。花ハ紅色デアル。戶籍籍ノ結果、*Carduus pycnocephalus* L. デアル事ガ判ツタ。勿論、文獻バカリデナク、外國標本トモ比ベタ結果デアル。歐洲ノ普通品デアル。

○かみつれもどき (新稱) (第9圖)

昭和6年7月12日、横濱市山下町ニ於テ *Anthemis Cotula* L. ニ相當スルモ

ノヲ得タ。全株灰色デ、ろーまかみつれニ似テ直立シ。葉ハ3回羽狀ニ細裂シ、裂片ハ線形デ極メテ細イ。總苞鱗片ハ、後者ニ比シ幅ガ廣イ。瘦果ノ稜ニハ微齒ガアリ、冠毛ハナイ。花ハ舌狀花ガ中性白色デ、尖端ハ3齒性（ろーまかみつれニアリテハ2齒性）、筒狀花ハ黄色デアル。要スルニ、ろーまかみつれニ比シ、1年生デアルコト、始カラ直立シテ偃臥又ハ斜上等ノ性質ヲ示サナイ事、舌狀花ノ尖端ハ通常3齒性デアル等ノ點デ區別出來ル。歐洲ニハ珍ラシクナク、北米デハ害草ニ數ヘラレテ居ル。和名ヲかみつれもどきトハシタモノ、眞正ノかみつれトハ別屬デアル。かみつれニ該當スルモノハアレダトカ之ダトカ云フ議論モアルガ今



第1圖 いがやぐるまぎく。第2圖 おにひれあざみ。

第3圖 西洋きんぽうげ。

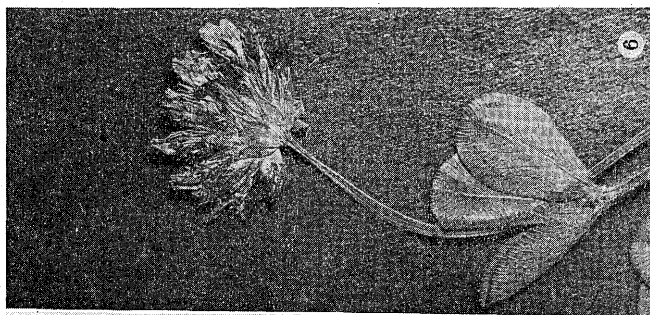
日かみつれト稱スルモノヲ茲デモかみつれト呼ブノデアル。

○まめかみつれ (新稱) (第4圖)

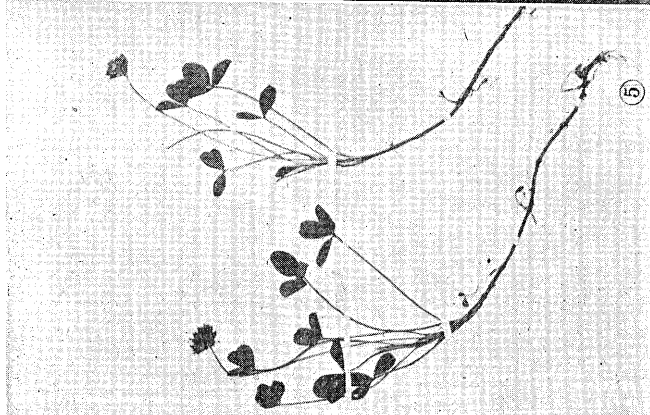
東京科學博物館ニ、ろーまかみつれ屬ノ一品ガアル (標本番號 59910)。森本仁一郎氏ガ、神戸デ (29. IV, 1939) 得ラレタモノデアル。概形ハろーまかみつれガ其儘衰弱シテ、半分以下ノ太サニナリ、頭狀花ハ舌狀花ヲ失ツタ或ハ失ヒカケタモノデアルト云ヒタイ程、莖モ花莖モ細クテ長ク、(花莖ノ長サ 7-8 cm)、其點如何ニモ異様デアル。花ノ頭狀部ガ圓錐形デアルノデ、*Anthemis* デアルノニハ心付イタガ、如何トモ手ノ出シ様ノ無イ珍物デアル。文獻ノ上デハ歐洲ノ *Anthemis aurea* (L.) DC. ニ相當スルガ、比較スベキ標本カ圖ヲ見ナケレバ決定出來ナイ。然ルニ日本植物學會ノ藏書ニ、Report of Missouri Bot. Garden VIII (1897) ガアリ、其 p. 122 = W. TRELEASE 氏ノ Botanical observation of Azores ナル論文ガアリ、尙圖版 30 = 1 頁大ノ圖ガアルノデ、其正體ヲ確メルコトガ出來タ (TRELEASE ハ *Anthemis nobilis* L. var. *aurea* (L.) DC. ナル名ヲ用ヒテ居ル)。BRITTON & BROWN ノ北米植物志ノ補訂版 III (1936) p. 517 ニハ、曾テ St. Louis デ一回採集サレタト書イテアルガ、日本デモ恐ラク神戸デ一回採レタト記録スルニ止ルデアラウ。北大西洋ノ Azores 諸島ハ、今回ノ戦亂ニ關係シナケレバ、地理學者カ中學生文ニシカ用ノ無イ處デアルガ、其島ニモアル草ガ神戸ニ來テ居タ事ハ、假令直接デナイニシテモ面白い事デアル。

○ひめしろびゆ (新稱) (第7圖)

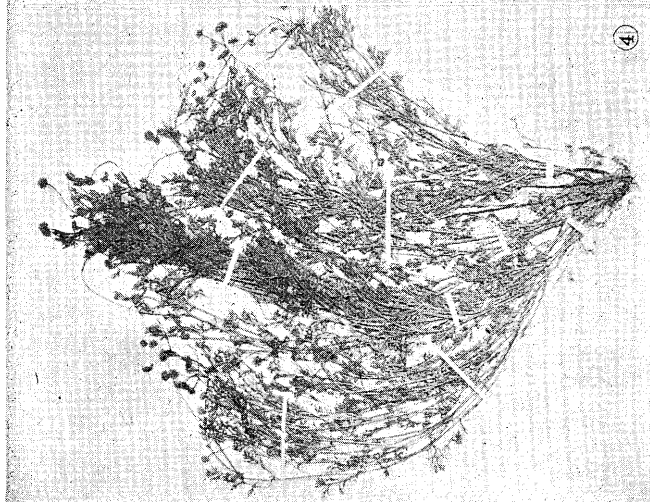
ひゆ屬ノ雜草デアル。學名ハ *Amaranthus graecizans* L. デ、既ニ歐米デ記錄サレテ居ル草デアルガ、本邦デハ新參ノ潛入者デアツテ、宇井縫藏氏ガ泉州堺市ノ海濱デ採ラレタ (25 VIII, 1934) モノデアル。宇井氏ノ送ラレタ標本デハ、莖ハ白色 (REICHENBACH ノ獨逸國植物圖說ニハ淡紅色ニ着色シテアル) デ、高サ 30 cm = 達シ、盛ニ分岐シ、主莖モ分枝シ、ヤ、蛇行狀ニ屈曲スル傾向ガアリ、表面ニハ短イ突起ガアリ、内部ニハ結晶砂ノ縱列ガ脈ニ沿ヒ認メラレル。葉ハ云フ迄モナク互生シ、葉身ハ大體ニ於テ筍形デ、多クハ鈍頭ナルモ、中肋ハ延長脫出シテ針形ノ突起ヲナシ、一見針ヲ具フル様ニ見エル。葉肉細胞中ニハ、金米糖狀ノ簇晶ガアリ、細脈ニ沿ヒ微細ナル結晶ノ縱列ガアル (尤モ之ハひゆ科ノ種類ニハ共通ナ特長デ、既ニ SOLEREDER 氏ハ Systematic Anatomy II, p. 652 = 收録シテ居ル)。然シ此點ハ種ノ特長ニハナラナイガ形態學的ニ興味ガアル。邊緣ハ平坦ナルヲ通則トスルガ時ニハ極メテ微ニ波狀ヲ呈スル。之ハ透明デ、疎ニ微齒狀ヲ呈スル鉾ノ存在ニ基因スル。葉身ノ大サハ、長サ 6-13 mm、



第6圖 其葉大×3



第5圖 つめくさだまし×1



第4圖 まめかみつれ×1

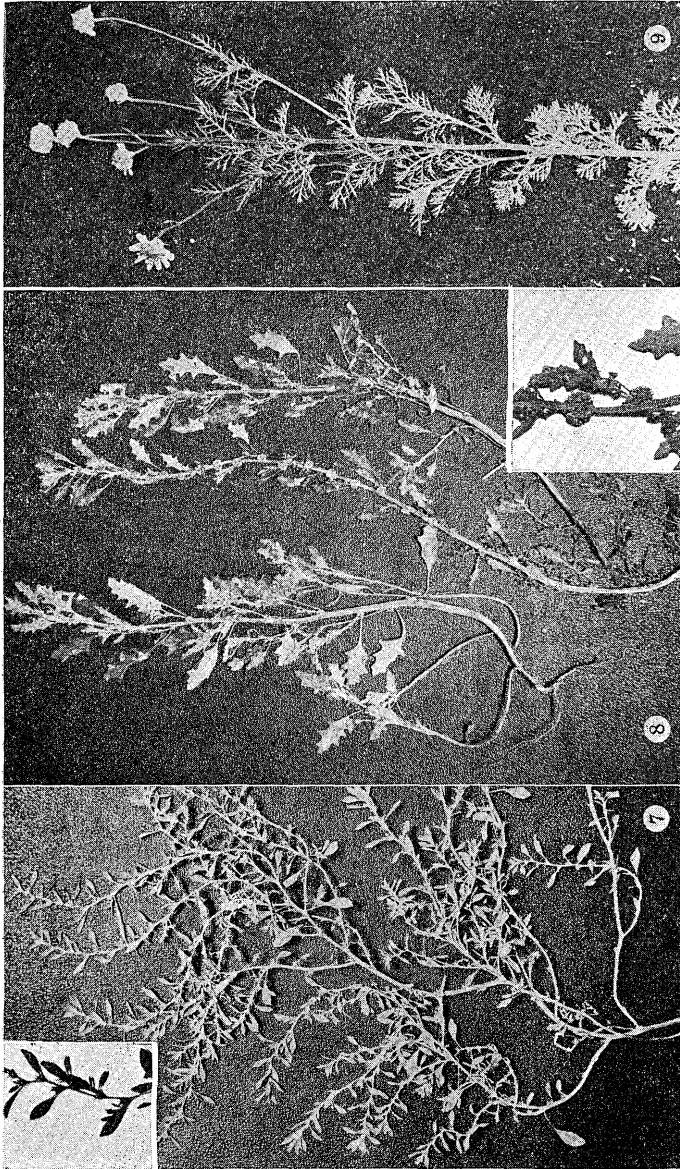
幅 2-5 mm デアリ、葉脚ハ延長シテ葉柄ニ移行スル。柄ハ 2-4 mm、腋生ノ花序ハ 1-3、萼ハ線狀デ苞ヨリ短、苞ハ披針形デ鋭尖、外側ニ反捲シ、長さ 3 mm、柱頭ハ 3 岐シ、果實ハ盒狀ニ裂開スル朔デ黑色圓形扁平デ周縁肥厚スル 1 子ヲ容ル。

○濠洲ありたさう (新稱、前川文夫氏所命)、こありたさう (宇井氏所命)
(第 8 圖)

前項ノひゆト同時ニ、宇井氏カラ頂イタあかざ科ノ一品ガアル。即チ同氏ガ攝州伊丹市デ (1 VII, 1933) 得クモノデ、概形ハ うらじろあかざ ニ似テ居ルガ、花序ガ毬形 (徑 3-5 mm) ニ發達スル。其他ハ何レモあかざ類ノ一般性狀ト共通デアルカラ省略スルガ、莖ヤ萼片ヤ、葉 (特ニ裏面) ニハ多細胞性ノ毛ト、ヤハリ多細胞デ短柄ノ腺毛ガ鏡下ニ見ラレル。葉ハ大體卵形又ハ卵狀橢圓形デ、邊緣ニハ各半側ニ、3-4 ノ灣狀齒ヲ備ヘ長さ 1-3 cm、幅 4-15 mm。學名ハ *Chenopodium carinatum* R. Br. (= *Blitum carinatum* C. A. MEY.) デアル。前記 R 氏ノ圖説ニ圖ガアルガ、夫レ丈デハ釋然カラザル處ガアツタガ、近頃 J. M. BLACK ノ *Flora of South Australia, Part II* (1924), p. 180 ヲ見タ結果、果實ガ判然トシタノデ解決出來タ。然ルニ東大ニハ、關本平八氏ガ宇都宮デ (VI, 1938) 得ラレタ標本ガアリ、之ニ前川氏ガ濠洲ありたさうナル和名ヲ與ヘテ居タノデ、同氏ノ新稱ヲ茲ニ公表スル。尙果實ハ徑 1 mm 位、線狀デ內向的ニ灣曲セル 5 片ノ萼片ニ抱カレ、濃褐色ノ種子ヲ收メテ居ル。本品ハ HOOKER, *New Zealand Flora* (1864), p. 231 ヤ F. von MUELLER, *Fragmenta Phytographiae Australiae VII* (1865) ヤ DIELS 氏ノ *Bibliotheca Botanica XXI* (1921) 等ニ立派ニ收録サレテ居ル通り、濠洲及ビ其附近ニ普通ナモノデアル。之ガ宇井、關本兩氏ニヨリ、邦内ニ發見サレ、御蔭デ之ヲ見ルコトガ出來タ。兩氏ノ炯眼ニ敬意ヲ表スル。

○つめくさだまし (新稱) (第 5, 6 圖)

元横濱税關ニ勤務サレ、現在東京芝浦ノ税關ニ居ラレル植物検査官松本賢吉氏ガ、横濱税關構内デ採ラレタ (1939) モノデ、今、東京科學博物館ノ標本 (59916) ニナツテ居ル一種ノしろつめくさがアル。不用意ニ見レバ、しろつめくさは過ギナイガ、松本氏ノ注意デヨク見ルト花ハ極微ニ紅色デ、普通品ヨリモ多モデ小葉片ノ邊緣ニ微齒ガアル。ソレ丈ナラヨイガ、花序ノ基部ニ 2 又ハ 3 中裂シタ披針形ノ苞ガ數枚アツテ、之等ガ總苞トナツテ居ル意外ナ存在デアル。之歐洲ノ *Trifolium fragiferum* L. デアリ REICHENBACH ノ獨逸國植物圖

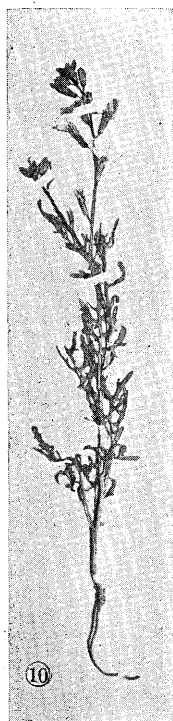


第7圖 ひめしろびゆ $\times \frac{1}{3}$, 左上挿圖 $\times \frac{1}{3}$ 第8圖 蒙洲ありたさう $\times \frac{1}{3}$, 右下挿圖 $\times 2$ 第9圖 かみつれもどき $\times \frac{1}{3}$

説ニ立派ナ圖ガアル。残念ナガラ、果實が無イガ、外國標本デ見ルト、特異ノ形狀ヲ呈スル莢果ノ頭狀團塊デアル。莢果ハ我ガたいつりあふぎノ其レニ似テ小サク長サ3mm、幅2mm位デ、中ニ數子ヲ收メテ居ル。花時ニハ、しろつめくさノヤ、小形ナモノ位ニシカ思ヘナイガ、之ヲ花時ニ區別シテ採集サレタ松本氏ノ炯眼ニハ敬服セザルヲ得ナイ。今尙横濱ニアルカドウカハ不明デアアルガ、植物ノ性質上尙殘存シテ居ルデアラウ。因ニ記ス、本品ハ曾テ渡來シタルモノ、如ク明治20年刊行ニカ、ル帝國大學植物園植物目錄ニ其名ガ載ツテ居ル。然シ當時和名ハ與ヘラレテ居ナイ。

○からくさはたざほ (新稱) (第10圖)

東京科學博物館ニ、松本賢吉氏ガ神戸税關構内デ (17 V, 1939) 發見採集サレタ十字花科草本ノ標本 (59917) ガアル。全ク無毛デ、花ハ黃色デ菜ノ花ニ似テ居ル。葉ハ橢圓形デ、莖ノ上方ノモノハ羽裂シ、羽片ハ更ニ微ニ淺裂スル傾向ガアル。此ノ科ノモノハ、果實ヲ見ズニ決定スル事ハ冒險デアアルガ *Diplotaxis tenuifolia* (L.) DC. ト決定スル。圖デ見ルト分リ難イガ、外國產標本ト比較シテ誤リハ無イト信ズル。和名ハ管理者佐竹博士ト相談ノ上、からくさはたざほ (新稱) トシタ。葉ト花ノ直感カラ出來タ名デアリ、マタ本屬ハ野外デ見付ツタノハ日本デハ始メテマアル。尤モ明治20年ノ帝大植物園目錄ニ學名丈ハ載ツテ居ル。歐洲產ノモノデハアルガ、今デハ米國ニ渡ツテ、大西洋岸ノ諸港ニモ見ラレルト云フ。前號以來外來品ノ戸籍調ニ没頭シテ來タガ、讀者モウンザリシクラウシ、筆者モ相當飽キタカラ此邊デ方向ヲ換ヘ様ト思フガ、此處デー言シテオキタイノハ、高價デ稀有ナ文獻ヲ東大デ自由ニ澤山見セテ頂イタ事デアル。其オ蔭デ解決ガ出來タノデアル。文獻ヲ一々此處ニ記録スル事ハ止メルガ、余ガ使用サセテ頂イタ丈ノ文獻ハ到底世間デ見ラレルモノデハナイ。コレ位ノ外來品ノ名稱ヲ調べルニ、之程多クノ本ヲ要スルノカト思フト驚カザルヲ得ナイ。特ニ記シテ感謝ノ微意ヲ表シテオク。

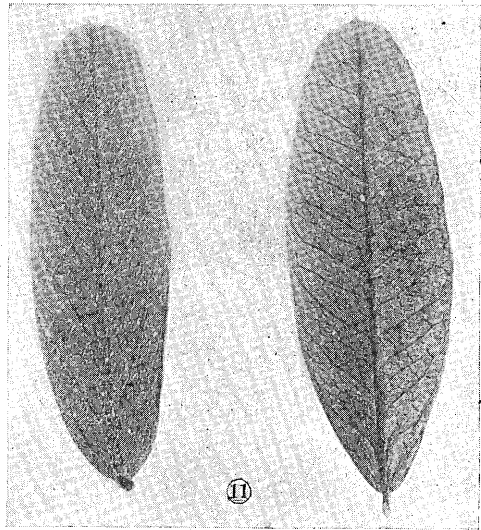


第10圖 からくさはたざほ ×3

○このはらくさふぢノ一產地 (第11圖ノ右)

余ハ甲州三ツ峠ノ河口湖ニ面スル斜面デ之ヲ採リ (25 VII, 1928)、更ニ河口

湖上ノ鶺ノ島デモ之ヲ採集シタ（12 VII, 1936）。ソレガ中井教授ニ依リ植物學雜誌（XLVI）, p. 58 ニ記錄サレ、次デ前川文夫氏ハ本誌 XI 卷 p. 367 デ、杉本順一氏ガ富士山麓山中湖畔デ採ラレタ事ヲ報ジ、更ニ奥山春季氏ハ本誌 XIV 卷 p. 343 デ、古瀬義氏ガ信州上飯田風越デ採ツタト告ゲラレタガ、余ハ埼玉縣秩父郡矢納村デ得タト云フ標本ヲ、最近知人カラ手ニ入レタ。矢納村ハ神流川ヲ境トシテ、群馬縣ノ多野郡ト境ヲ接スル地點デアルカラ、群馬縣下デモ早晚發見サレルモノト信ズル。之等ハ、詳シク云ヘバ *Vicia amurensis* OETT. var. *silvatica* (KOM.) HARA 即このはらくさふぢデアル。*Vicia amurensis* ハ var. *pratensis* (KOM.) HARA ト var. *silvatica* (KOM.) HARA トノニツニ分レルガ、元々 KOMAROV 氏ガ滿洲植物志デ試ミタ區別ニ沿源スルモノデ、原記載ニ依レバ、前者ハ小葉片ノ長サガ 30 mm ニ達スルモノデ、後者ハ 15 mm 位ノモノデアル由。然ルニ、余ガ鶺ノ島ノ採品中ニハ 27 mm 程度ノモノモ混在シテ居ルカラ、此ノ區別ハ餘リ嚴重ニ考ヘナイデ、小葉片ノ小形ノモノガ日本ニ産シ、且ツ今迄知ラレテ居ルモノハ、皆同一形ノモノデアルト見テヨカラウ。將來更ニ新産地ガ追加發表サレルデアラウガ、現在之ガつるふぢばかま（第 11 圖ノ左）ト混同サレテ居ル疑モアル。概形ハ兩者ヨク似テ居ルガ、本品ノ方ガ小花梗ガ長ク、葉ハ革質デ滑澤、即チ葉質ヲ異ニシ、つるふぢばかまノ様ニ葉ノ兩面ニ顯著ナ長毛ノ散生ヲ見ズ、僅ニ葉裏中肋及ビ側脈上並ニ表面中肋上ニ、平伏性ノ小量ノ毛ヲ有スルニ過ギナイ。マタ、本品ニ於テハ中肋ト側脈トノナス角度ガ 60 度ニ近イノニ對シ、つるふぢばかまニ於テハ其角度ハ 30 度ニ近イ。コノ中肋ト側脈トノナス角度ハ、極メテ安定シタ、從ツテ確實ナ特長デアルカラ、之ニテ兩者ハ充分ニ區別シ得ラレル。茲ニ兩者ヲ比較シク寫眞ヲ掲出シテ之ヲ證シテオク。



第 11 圖 右、このはらくさふぢ ×3
左、つるふぢばかま ×3

尙和名ハ、中井教授ガ植物學雜誌デ前者即チ *pratensis* = 「野原草藤」 後者即チ *silvatica* = 「廣葉野原草藤」 ト命名サレタガ、其後ニ至リ前川文夫氏が、中井博士ノ承諾ヲ得テ、後者ヲこのはらくさふぢト改名サレ、本誌（前出）ニ報告サレタモノデアル。改名ノ理由ハ、前川氏ノ記事デ明白ニ理解サレル通り、他ニ同一名ノモノガアルカラ、其レト區別シテ混亂ヲ防止スルガ爲メデアル。終リニ、本品ガ各地デ發見サレ、大陸トノ分布上ノ連絡系統ガ明ニナランコトヲ希望シテオク。

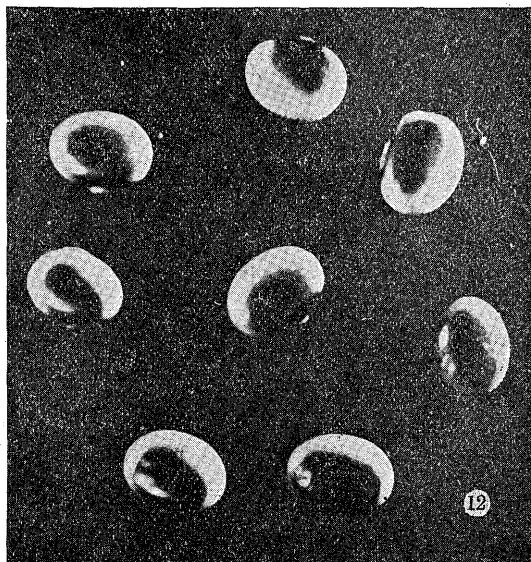
○鞍掛豆（第12圖）

大豆ノ一品種ニくらかけまめト云フノガアル。即種子ノ兩側ニ大斑點¹⁾ノ存スル形デ其狀アタカモ馬背ニ鞍ヲ置イタ様ニ見エルトコロカラスノ如キ名稱ヲ與ヘラレタノデアラウ。其斑點ノ黒イノガくろくらかけまめデ斑點ノ赤イノガあかくらかけまめデアル。

斑點ト云フノハ臍點ノ側カラ後方ニ圓形ニ擴ガルモノデ寧ロ痣ト云フ方が分リ易イカモ知レナイ。

而シテ其痣ハ種皮ニアルノデ子葉ニハ現レテ居ナイ。之等ハ既ニ飯沼慾齋ガ草木圖說（洋裝ノ増訂版デ云ヘバ第III卷 p. 949デアル）ニ圖說シテ居ル。

コノ増訂版ヲ輯スルニ當リ牧野先生ハ之ニ *Glycine Soja* S. et Z. forma *kurokurakakemame* MAKINO ノ品種名ヲ與ヘテ居ル。マ



第12圖 くろくらかけまめ ×2

タ故三好學博士ハ「日本之植物界」（1910）ノ p. 549ニ奇麗ナ自然色ニ近イ圖ヲ掲ゲテ居ル。コノくろくらかけまめガ近頃出廻ツタノデ、之ヲ播種シテ見タ處、明白ニだいづガ出テ來タ。而シテ草高ハ普通ノモノヨリ高く、花ハ紫色デアル。更ニ詳シク申セバ旗瓣ハ淡紫紅色、側瓣ハ更ニ淡色、龍骨片ハ尖端部ハ極メテ濃紫紅色デアル。然シ生

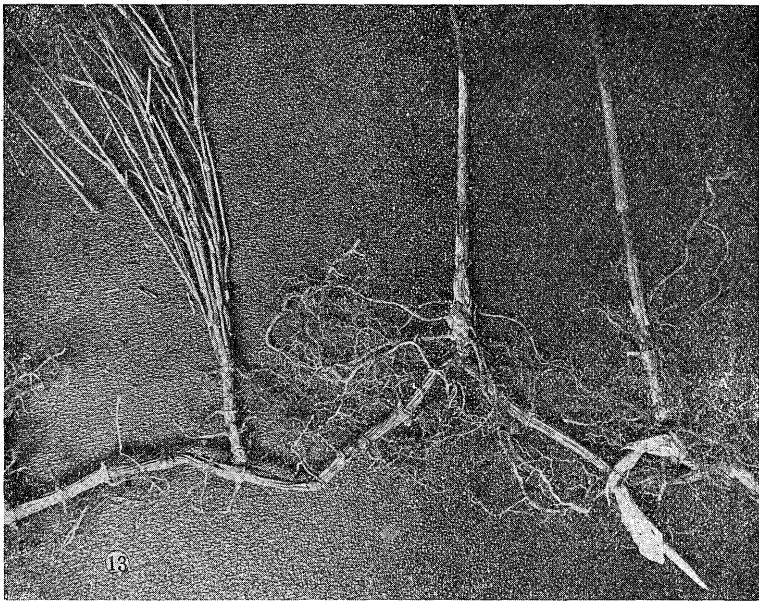
1) コノ斑點ハ若い時ニハ紫紅色デ成熟スルト黒クナリアントチアンノ反應ヲ現ハス。

物ハ勝手ナコトヲスルモノデ、時ニ旗瓣ト龍骨片ハ色ガアツテ、側瓣ノ白イノモアル。大豆ハ白花品ト紫紅品トアルガ、之ハ後者ニ屬シ慾齋ノ記録セル通デアル。大豆ノ品種ハ極メテ多ク、日本ヨリモ米國ノ方ガヨク分ツテ居テ、米國農務省ノ報告ニハ多クノ品種ガ認メラレテ居ル。從ツテ之等ニ一々學名モドウカト思フガ、若シ學名ノ存在ヲ必要トスルナラ、別ニ改名ヲシナケレバナラナイ。世間周知ノ如クだいづノ學名ハ MERRILL 氏ガ An interpretation of Rumphius's Herbarium Amboinense (1917), p. 274 デ、*Glycine Max* (L.) MERRILL ト改名サレタ以上、之ヲ原種トスル品種名ニ改メナクテハナルマイ。ソレハソレトシテ茲ニハ黑鞍縣豆ヲ播種シタラ、上記ノ如キ結果ニ到達シタ事ヲ記述シテオク。從來ノ *G. Soja* ガつるまめノ名ニナリ、久シイ間ノお染ノ學名ヲ大豆ニ使用出來ナクナツタノハ、何ントナク心淋シイ感ガスルガ致方ナイ。次ニ鞍縣豆カ鞍掛豆カノ問題デアルガ、飯沼慾齋ハ片假名ヲ用ヒテ居ルカラ問題ハ無イガ、漢字ヲ用フル場合ニハ三好先生ノ如ク「懸」カ或ハ「掛」カノ疑問ガ出テ來ル。勿論三好先生ノ出典ハ知ル由モナイガ、倭訓栞ニハ「鞍懸豆あり四邊白く中黒し」トアルカラ三好先生ガ勝手ニ使用シタノデハ無イト思フ。シカシ寺島良安ノ和漢三才圖繪第 CIV 卷大豆ノ條下ニハ「鞍掛豆、久良加介末女、白色有黒紋而狀如馬鞍故俗名之」トアルカラ私ハ茲ニ掛ヲ用フルコトニシタ。然シ何モ之ニ執着スルワケモ理由モナイコトハ云フ迄モナイ。

○竹藪（第13圖）

茲ニ竹藪ト云フノハ、人ガ栽培シテ居ル孟宗ヤ苦竹ノ藪デナク、女竹屬ノモノ例ヘバあづまねざさノ藪ノ様ナヲ云フノデアル。今其藪ヲ見ルト立派ナ地上莖ノ上部ニ枝ガ出テ、中部以下ハ無枝ノ稈ヲナシテ居ル。ツマリ此ノ竹ノ代表的性狀ヲ示シタモノニ伍シテ、地表カラ細イノガ澤山叢生シテ居ルノガ視ラレル。此場合、時ニハ兩者ガ同一ノ地下莖カラ發現シテ居ルモノデアルカドウカ疑ツテ見タクナル場合モアル。此ノ叢生シテ居ル場合ニハ、通常細イ1本ノ稈ガ現レ、ソレガ分枝セズ稈頂ニ掌狀ニ配列セル5-7ノ葉ヲ發生シ、アタカモささ狀ヲ呈シ、葉ノ大サモ異ルコトガ鮮クナイ。從ツテ、此ノ兩形ヲ別々ニ採集シテ來ルト、神ナラヌ人間ハ別々ノモノト判斷シテ見タクモナル。ソレ故、私ハ「竹ハ同一形式ノモノヲ同一時期ニ得タモノデ無ケレバ比較シナイ方が適當デアル。」ト云フ私説ヲ持ツテ居ル。然シ、ソレハ私説デアルカラ兎ニ角トシテ、最近コノ兩型ガ果シテ同一地下莖カラ出テ居ルカドウカアづまねざさニ就テ實見シテ見タクナリ、某處デ空地利用ノ開墾地ヲ一巡シタ處、澤山ニ掘返

サレタ資料ヲ得タノデ、其寫眞(第13圖)ヲコゝニ公開スルコトニシタ。之ニ依テ之ヲ見ルニ竹ハ地下莖カラ出タ筍ノ自然ノ發育ノマヽニシテ置ケバ立派ナ發育ヲナシ、通常中部以上ニノミ枝ヲ叢出スルノデアルガ、若一度稈ガ中斷サレルト、通常枝ヲ出サナイ部位ノ節カラ休芽ガ發達スル様ニ、新タニ枝ヲ出スノデアル。シカモ、其中斷ガ稈ノ地平線ニ近イ部分ニ於テ行ハレルト、稈ノ地下ニアル部分ノ節、即チ地下莖ニ近イ短イ節間ヲ有スル部分ノ各節(普通最下部ヨリ4-5節目)カラ分枝シテ、遂ニソレガ叢生狀態ニナルノデアル。而シテ



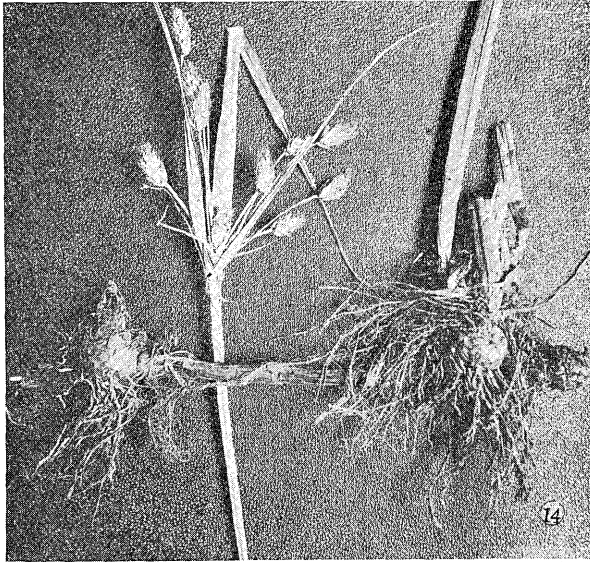
第13圖 あづまねざさ $\times \frac{1}{3}$

コノ部分ハ歳々筍ヲ出スガ、一種ノ側枝狀ノモノデ、決シテ堂々ト直上スル性質ヲ示サナイ。從ツテ、斯クノ如キ筍ハ自然ニ放置シテアル處ニハ起ラナイ。之ニ反シ人爲的ニ鎌ヲ入レタ所デハ、必然的ニ起ルノデアル。其點カラ見テ、其地點ハ人ノ手ノ入ツタコロカ否ヤヲ判斷シ得ル目標トモナル様ニ考ヘラレル。ソナナワケデ、私ハコノ叢生狀ニナツタモノハ二次的ノ性狀デアルカラ、可成標本ニシナイコトニシテ居ルガ、ソレト同時ニ筍ガ素直ニ生長シタ正常ノモノヲ標準ニシタ標本ニハ、必ラズコノ二次的形狀ノモノヲ添ヘルコトニシテ

居ル。私ノ方針ノ當否ノ判斷ハ第三者ニマカセルガ、今回ノ開墾地デ掘り返サレタ資料ニヨリ、私ノ從來ノ考ヘハヨクナイ迄モ決シテ悪クナイ様ニ思ハレル。勿論修養ノ積ンデキナイ人間ハ、自分ノ考ノ妥當性ヲ主張シ易ク、自分モ其仲間入りヲシテ居ルカモ知レナイカラ、前述シク通り其判斷ハ第三者ニ委セル次第デアル。

○うきやがらノ根莖（第14, 15 圖）

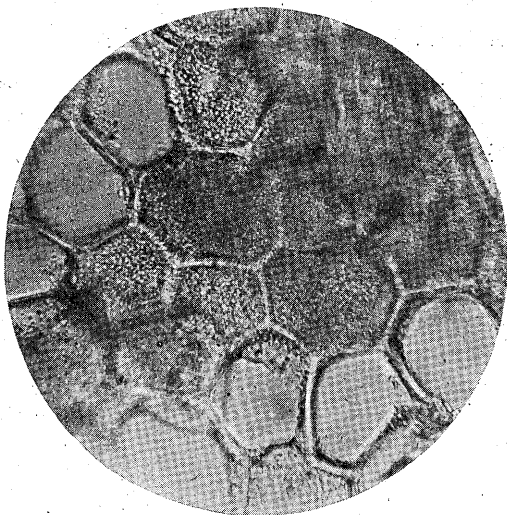
竹ノ根莖ニ就テ述ベタ序ニ、うきやがらニツキ一言スル、ト云フノハ澤山ノ標本ヲ見ルト、根莖ノ付イテ居ルノヲ餘リ見ナイカラデアル。此根莖ハ日本植物圖鑑ニ立派ナ圖ノアル通り、根莖ハ横走シ、其尖端ニ直径約 1 cm 位ノ塊莖ガ出来、更ニソレカラ水上莖ガ出デ、秋ニナツテ莖ガ枯レテモ殘存シテ、澱



第14圖 うきやがら × $\frac{1}{2}$

粉ノ貯藏器官トナル。此塊根ヲ横斷シテ見ルト、綺麗ナ白色デアル。更ニ、切片ヲ作ツテ檢鏡スルト、カナリ厚膜デ、孔斑ヲ有スル多角形デ緻密ナ貯藏組織ヨリ成リ、其内ニ澱粉粒ガ充滿シテ居ル（第15圖）。澱粉粒ハ非常ニヨク粒ガ揃ヒ、殆ンド同大デ其直径ハ 2μ 内外ニ過ギナイ。即チ、極メテ小サイ澱粉デアル。日本藥局方註解ニ依レバ、こむぎ粉ハ $2-9\mu$ トアルカラ、ソレニ比スルコ

トガ出來ルガ、こむぎノ様ナ
複合澱粉デハナイ。ソコデ、
うきやがらノ地下莖カラ、コ
ノ澱粉ヲ分離採取スルコトハ
不可能デナイ許リデナク、相
當有望デアルト云ヒ得ル。勿
論、專業トナスニ足ルトハ云
ハナイガ、多角の企業ヲ立前
トスル農家ノ副業トシテ、若
干ノ見込ガアルト考ヘル。材
料ハ、全國到ル處ニアリ、特
ニ湖沼、池畔、水濕地帯ナド
デハ其産額蓋シ少量デ無カラ
ウト思フ。敢テ地方ノ諸士ニ
慫慂スル。



第15圖 うきやがらノ塊莖横断面 ca. $\times 270$

ERRATA

第17卷 第9號 正誤表

頁	行	誤	正
505	上カラ 4	et	ex
520	上カラ 21	縁	縁
521	下カラ 2	紅頭蘭ハ	紅頭蘭ト
528	下カラ 11	Odahuka-	Odami-
529	上カラ 11	行文全部ヲ除キ	39682) } ヲ加フ
547	第10圖説明	} とげむぎ	とげしば
551	上カラ 11		